第4章 3. 災害ボランティアとしての活動

東日本大震災からの復旧に，大人だけではなく，たくさんの大学生や高校生がボランティアとして関わりました。もし，ほかの地域で災害が起こったら，あなたにできることは何かを考えてみましょう。

知っておこう

高校生の災害ボランティア活動の取り組み

東日本大震災では，県内の高校生がさまざまな災害ボランティア活動を行いました。

ラグビー部による汚泥の除去作業

●白石工業高校　汚泥除去，がれき撤去

学校は沿岸部に比べると被害が少なかったため，ラグビー部が亘理町に出向き，浜吉田駅前で汚泥の除去作業・がれきの撤去などを行いました。

●気仙沼向洋高校　VFC 同好会の活動

有志生徒による VFC（Volunteer Friendly Circle）同好会は，災害ボランティアセンターと連携し，唐桑体育館において，がれきの中から見つかった写真やアルバム，賞状やトロフィー，ノートや教科書，食器などの拾得物の洗浄・整理を行いました。

●中新田高校　震災被災者支援募金活動

生徒会執行部が主体となって募金活動を企画，2011（平成 23）年 4 月 15，16 日の 2 日間にわたり，16 名の生徒が加美町のスーパーマーケット 2 店舗において募金活動を行いました。

生徒会による震災被災者支援募金活動

唐桑体育館に集められた拾得物

考えてみよう

ニーズに応じた災害ボランティア活動

災害ボランティア活動の場は，時間の経過に応じて想定されるニーズにより異なってきます。想定される主なニーズから自分たちにできることを考えてみましょう。

時期と時間経過	災害ボランティア活動に関する被災地の動き	想定される主なニーズ
緊急対応期 発災から２～３日後	**地元ボランティアの活動開始** ○避難所の開設 ○災害ボランティアセンターの開設	●避難所の開設手伝い ●災害ボランティアセンターの運営支援
復旧期 震災なら数か月後 水害などでは数週間後	**被災地ボランティアの活動のピーク** ○避難所の本格運営 ○自宅への帰宅 ○被災者それぞれの生活課題の明確化	●避難所の運営手伝い ●物資調達・運搬・仕分け手伝い ●屋内外の片付け，引っ越し手伝い ●被災者の話し相手 ●被災者ニーズの把握・掘り起こし
復興期 震災なら１年後 ～復興まで	**地元住民・ボランティアによる活動に移行** ○仮設住宅開設 ○災害ボランティアセンターの閉鎖	●要援助者の日常生活支援 ●被災者の相談相手 ●被災地のコミュニティづくり・まちづくり活動の支援

（滋賀県災害ボランティア活動連絡会「災害ボランティア活動ハンドブック」を参考に作成）

知っておこう

県外の高校生からの温かい支援

●仮設住宅の方々の気持ちに寄り添った支援　－兵庫県立佐用高校－

兵庫県立佐用高校では，同校農業科学科で育てたマリーゴールドなどの花苗約 1,000 ポットを，石巻北高校の生徒たちとともに仮設住宅に植栽しました。

佐用高校は，2009（平成 21）年 8 月の豪雨災害で大きな被害を受けた学校です。

仮設住宅での植栽

サービスエリアでの花の水やり

仮設住宅の人たちが，この花を見て，少しでも気持ちが癒やされるようにと，兵庫県から 13 時間かかるバスの道中に花がしおれないよう，途中のサービスエリアでバスからすべての花を下ろし，水を与えました。

これも，仮設住宅で暮らす人たちの気持ちを思い，生徒たちが取り組んできたことです。

防災知識

被災地でのボランティアの心構え

ボランティアの意味

ボランティア（volunteer）の語源は，英語の will の語源でもあるラテン語の Volo（ウォロ）で，「意思」「志願」という意味の言葉です。だからこそ「自分のできることを自ら進んでやる」のですが，それだけでは「自分のやりたいことをやっているだけ」に陥ってしまいかねません。

ボランティアは単なる「労力提供」や「滅私奉公」ではありませんし，単なる「自己の向上」や「自分探し」の手段でもありません。ボランティアとは「助けを求める人に手を差し伸べないではいられない」という共感と，受け手側の受容によって初めて成立する「協働」なのです。

被災地においてお互いに気持ちよくボランティア活動をするには，次のことに心がける必要があります。

① **無理しない**　「できることをできる範囲で」。学校や仕事，体調に影響するボランティアはよくありません。

② **約束を守る**　時間や約束を守る。連絡もせずに遅刻したり，休んだりすると迷惑になります。

③ **秘密を守る**　活動中に知った個人情報を漏らさない。信頼関係を保つために，重要なことになります。

④ **活動は積極的に，また謙虚に**　ボランティアは「してあげる」，「してもらう」関係ではなく，自分がやりたいからやる活動です。現場で自分ができることを積極的に探すことが大切になります。

⑤ **ボランティア保険への加入を忘れずに**　活動中の万が一の事故に備え，保険に加入することが大切になります。

⑥ **ニーズをつかむ**　必要とされる働きは，時間経過・場所・状況によって変わっていきます。ボランティアは相手の「受容」あってのこと，相手に何を求められているか，自分がなぜ必要とされているか忘れないようにしましょう。

⑦ **現地に行くだけがボランティアではない**　現地でしかできないボランティアも大切ですが，ボランティアセンターの事務や，被災地以外での募金，物資の調達など，被災地から離れていてもできるボランティアがあります。　（内閣府「防災ボランティアの『お作法』集」，全国社会福祉協議会「災害時のボランティア活動について」などを参考に作成）

話し合ってみよう

被災地でのボランティア活動の際は，現地の人に心配や負担をかけてはいけません。
そのほかに気をつけなければならないことはないか話し合ってみましょう。